

各 関 係 機 関 御 中



農研第 4 3 1 号
令和 7 年 7 月 3 日

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

令和 7 年度病虫害発生予報第 4 号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 中央普及支援センター 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	---

病虫害発生予報第 4 号 (予報期間：7月中旬～8月上旬)

予報内容

水 稲

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病虫害発生予察注意報第 2 号（令和 7 年 7 月 3 日付）参照】

セジロウンカ、フタオビコヤガの発生は**やや多**と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

紋枯病の発生は**やや多**と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

大 豆

ウコンノメイガの発生は**やや多**と予想される。7 月 6 半旬に 1 茎あたり葉巻数が 2 個を超えた場合、直ちに防除する。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

果 樹

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。発生減となる下草を刈り取った後に防除する。

ナシ黒星病及び**カキ炭疽病**の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

野菜・花き（さつまいも、やまのいもを含む）

オオタバコガ及び**シロイチモジヨトウ**の発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底するとともに、施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

ネギハモグリバエの発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

トマトキバガの発生は**多**と予想される。発生を認めたらすぐに防除を行う。

軟腐病の発生は**多**と予想される。作業中は作物を傷つけないように注意するとともに、害虫防除を徹底する。

スイカつる枯病及び**ネギ黒斑病**の発生は**やや多**と予想される。ほ場の排水に努め、降雨前後の防除を徹底する。

アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。

—気 象 予 報—

1 か月予報 （令和7年6月26日付け 新潟地方気象台）

予報期間 6月28日～7月27日

[確率予報]

気 温	低い	10%	平年並	10%	高い	80%
降 水 量	少ない	50%	平年並	30%	多い	20%
日照時間	少ない	20%	平年並	30%	多い	50%

[概要]

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

・ 6月28日（土）～7月4日（金）

太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

・ 7月5日（土）～7月11日（金）

太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

・ 7月12日（土）～7月25日（金）

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。

2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

1 水稻の病害虫

穂いもち

発生時期	出穂期以降
発生量	少
予報の根拠	(1) BLASTAMの感染好適日の出現延べ日数は並 (±) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量は少ない (-)
防除上の注意事項	(1) 出穂前後に降雨があると発生が拡大するので、防除は必ず実施する。 (2) 葉いもち発生地域では、出穂前後の防除後も進展が見られるようであれば追加防除を実施する。

紋枯病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の茎数は平年並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。 (2) 前年発生した圃場や茎数の多い圃場では、多発する可能性があるため留意する。

斑点米カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 雑草地における斑点米カメムシ類の発生は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。 【病害虫発生予察注意報第2号（令和7年7月3日）参照】

セジロウンカ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 予察灯では未誘殺。本田すくい取りでの捕殺は早い (+) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の飛来状況によっては多発するおそれもあるため留意する。

コブノメイガ

発生時期	多飛来期は7月下旬
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の飛来状況によっては多発するおそれもあるため留意する。

ツマグロヨコバイ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生状況に留意する。

フタオビコヤガ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) フェロモントラップでの誘殺数は多 (+) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生状況に留意する。

2 大豆の病害虫

紫斑病

発生時期	感染時期は幼莢期
発生量	少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量は少ない (－)
防除上の注意事項	(1) 防除適期は幼莢期から子実肥大期である。

ウコンノメイガ

発生時期	7月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 生育が旺盛な圃場、葉色が濃い圃場で多発するので注意する。 (2) 7月6半旬に1茎あたり葉巻数が2個を超えた場合、直ちに防除する。

アブラムシ類

発生時期	7月上旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

3 果樹の病害虫

ナシ黒星病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多 (+) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量は少ない (-)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量は少ない (-)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 予察灯での誘殺数は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生を認めた場合は直ちに防除する。

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類（なし、りんご）

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は少（－） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量は少ない（＋）
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。 (2) 発生源となる下草を刈り取った後に防除する。

4 野菜・花きの病害虫

うどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（－）
防除上の注意事項	(1) 過繁茂を避ける。 (2) 施設では過度の乾燥を避ける。

軟腐病

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（＋） (2) 気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1) 作業中は作物を傷つけないように注意するとともに、害虫防除を徹底する。

スイカつる枯病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（－） (3) 降水量は平年並か多い（＋）
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ疫病	
発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 降水量は平年並か多い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。
カボチャ疫病	
発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 降水量は平年並か多い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。
ネギ黒斑病	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。
ネギハモグリバエ	
発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。
アブラムシ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
ハダニ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は少ない (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アザミウマ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

シロイチモジヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

トマトキバガ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップの誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
注意事項	(1) 発生を認めたらすぐに防除を行う

コガネムシ類 (さつまいも、やまのいも)

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) コガネムシ類の予察灯誘殺数は少 (－) (2) 降水量は少ない (+)
防除上の注意事項	(1) 防除適期は7月下旬から8月上旬である。